安全データシート

1. 化学品及び会社情報

スズキエンジン清浄剤

製品用途: ガソリン燃料添加剤
会社名及び住所
シェブロンジャパン株式会社
〒105-6218
東京都港区愛宕2-5-1
愛宕グリーンヒルズMORIタワー 18階
日本

運輸上の緊急事態に対する対応
アジア: Chevron Emergency Information Centre +(1) 510-231-0623
オーストラリア: 1 800 009 010
中国: (+86) 138 113 09746
ヨーロッパ: Oronite SA - Gonfreville Plant +33 2 35 25 55 00
北米: CHEMTREC (800) 424-9300 or (703) 527-3887
南米: Chevron Oronite Brasil Ltda (24 hours) 55 11 4478-1200
健康上の緊急連絡先
Chevron Emergency Information Center：米国内にあります。:
米国内にあります。国際コレクトコールを受け付けます。(800) 231-0623 または (510) 231-0623
製品情報
技術情報: 81-3-5408-1921 (日本国外からの国際電話) / 03-5408-1921 (国内)

D-Tect®, OLOA®, OGA®, OFA®, ODA®, PARATONE®, TFA® は、シェブロン オロナイト社 (Chevron Oronite Company, LLC) の登録商標である。

2. 危険有害性の要約

分類: 引火性液体： 区分 3 吸引性呼吸器有害性： 区分 1 皮膚腐食性及び皮膚刺激性： 区分 2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) (麻酔作用) ： 区分 3
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) (気道刺激性) ： 区分 3 水生環境有害性 (急性) ： 区分 2
水生環境有害性 (長期間)： 区分 2

注意喚起語: 危険

物理的危険・有害性: 引火性液体及び蒸気 (H226)

健康有害性: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ (H304) 皮膚刺激 (H315)
眠気又はめまいのおそれ (H336) 呼吸器への刺激のおそれ (H335)。

環境有害性: 長期継続的影響によって水生生物に毒性 (H411)

注意書き：
予防: 熱 / 火花 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。 - 禁煙 (P210)。
容器を接地すること / アースをとること (P240)。 火花を発生させない工具を使用すること (P242)。
静電気放電に対する予防措置を講ずること (P243)。 容器を密閉しておくこと (P233)。
防爆型の電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器を使用すること (P241)。
粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーの吸入を避けること (P261)。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること (P271)。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること (P280)。 取扱後はよく洗うこと (P264)。 環境への放出を避けること (P273)。
応急措置: 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること (P304+P340)。
気分が悪いときは医師に連絡すること (P312)。
皮膚 (又は髪) に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水 / シャワーで洗うこと (P303+P361+P353)。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断 / 手当てを受けること (P332+P313)。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること (P363)。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること (P301+P310)。 無理に吐かせないこと (P331)。
火災の場合：消火にはSDSに指定された方法を用いること (P370+P378)。
特別な処置が必要である (このラベルの医師への注意を見よ) (P321)。 漏出物を回収すること (P391)。
保管: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと (P403+P233)。
涼しいところに置くこと (P235)。 施錠して保管すること (P405)。
廃棄: 内容物/容器を適切な国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること (P501)。

3. 組成及び成分情報

本品は混合物である。

構成成分	CAS番号	量
軽質芳香族系ソルベントナフサ (石油)	64742-95-6	89 %重量
1,2,4-トリメチルベンゼン	95-63-6	35 %重量
1,3,5-トリメチルベンゼン	108-67-8	18 %重量

ポリエーテルアミン	通商秘密	11 %重量

4. 応急措置

眼:
特別な救急処置は必要ない。予防措置として、コンタクトレンズを装用している場合はコンタクトレンズを外し、水で眼を洗浄する。
皮膚:
直ちに水で皮膚を洗い、汚染された衣類と履物を脱ぐ。症状が悪化した場合、医師の診察を受けること。皮膚から物質を取り除くため、ウォーターレスハンドクリーナー、鉱油、ワセリンを塗ること。そして石鹸と水で洗うこと。汚染された衣類と靴は廃棄するか再使用の前には完全に洗うこと。
飲み込み:
飲み込んだ場合、直ちに医師の診察を受けること。嘔吐を誘発してはならない。意識のない者に口から物を与えてはならない。
吸入:
暴露した人を新鮮な空気が吸える場所に移動させる。呼吸をしていない場合、人工呼吸を行うこと。呼吸困難な場合は酸素を与えること。呼吸困難が継続する場合または他の症状が発症した場合は医師の診察を受けること。
医師への注記:
本製品の飲み込み、またはそれに引き続いての嘔吐は軽質炭化水素溶液の誤嚥を引き起こし、肺炎の原因となるおそれがある。

5. 火災時の措置

消火手段: 水の噴霧、泡、粉末消火剤または二酸化炭素で消火する。
異常な火災による危険: 適正な取り扱いや保管については第7章を参照のこと。

消防士の保護:
消火活動説明書:
本物質を巻き込んだ火災の場合、自蔵式呼吸装置を含む適切な防災装備を身につけていない者は密室あるいは閉所となっている火災場所に入ってはいけない。
可燃性製品:
燃焼条件に強く依存している。本物質が燃焼すると、一酸化炭素、二酸化炭素、未確認の有機化合物などを含む浮遊する固体、液体、およびガスの複合混合体が放出される。
燃焼により下記の酸化物を生成する可能性がある： 窒素 .

6. 漏出時の措置

保護手段:
流出物や放出される蒸気に近接する引火の原因となるものはすべて取り除く。本物質が作業区域に流出した場合は、直ちにその区域から脱出する。可燃性ガス検知器で区域をモニターする。
流出の管理:
危険に曝されることなく流出を止められる場合は、流出を止める。土壌、地表水、地下水のさらなる汚染

を食い止めるため、流出を阻止する。曝露防止及び保護措置の注意事項を遵守しながら、こぼれた部分はできるだけ早くきれいにする。非可燃性の吸収性物質やポンプによる汲み出しなどの適切な方法を実施する。本製品を取り扱うために使用する機器はすべてアースする。揮発を抑制するため揮発抑制用泡剤を使用することができる。きれいで火花の出ない道具を使って吸着された物質を回収する。実行可能で適切であるならば、汚染された土壌を取り去る。汚染されたものは廃棄容器に入れて、該当規則に準じて廃棄する。
報告、報告中: 流出が生じた場合、適切なあるいは要求される地方自治体に報告する。

7. 取扱い及び保管上の注意

一般取り扱い情報:
土壌を汚染したり下水や排水システム及び水域に本物質を垂れ流すことを避けてください。
予防手段:
液体は蒸発し、引火して爆発的に燃焼する蒸気 (フューム) となる。目に見えない蒸気は容易に広がり、種火、溶接機器、電気モーター、スイッチなど種々の引火源により着火することがある。液体温度が29C (85F)を超えると火災の危険性は高くなる。 眼、皮膚、衣類に付着させないこと。
味見したり飲み込んだりしないこと。 蒸気やフュームを吸入しないこと。
取り扱い後、十分に手を洗うこと。
静電的危険性:
静電気が蓄積し、本物質を取り扱うには危険な状態になることがある。この危険性を減少させるため、連結やアースが必要になるが、それだけでは十分とは言えない。静電気の蓄積および引火する状況を生み出す可能性のある操作過程 (タンクや容器の充填、飛び散るような充填、タンクの掃除、サンプリング、測定、荷積みの交換、ろ過、混合、攪拌、バキューム操作など) を再評価し、適切な軽減方法を採用すること。
容器の警告:
容器は、圧力に耐えられるようには設計されていない。空の容器に圧をかけないこと。圧をかけると爆発的に破裂することがある。
空になった容器には製品の残渣 (固形物、液体、および/または蒸気) が残っており、危険である。圧をかけたり、切断したり、溶接したり、鑞付けしたり、はんだづけしたり、穴を開けたり、研磨したり、熱、火炎、火花、静電気、その他の発火の源に曝したりしないこと。爆発して死傷者を出すことがある。空になった容器は内容物を完全に排出し適切に栓をして、迅速にドラム缶修理に回すか廃棄する。

一般保管情報:
高温の物、火花、火炎、加熱された表面の近くで使用したり保管してはならない。十分に換気された区域のみにて使用、保管すること。本物質を使用していないときは容器を密閉しておく。

8. ばく露防止及び保護措置

一般的要件:
工業的制御法をデザインし、個人用防護具を選択する場合、本物質の有害な可能性 (セクション2を参照) 、適用可能な曝露限界値、作業活動、および作業現場の他の物質などを考慮する。技術的制御法または作業手順が、本物質の有害レベルへの曝露を予防するのに適切でない場合、以下にリストした個人用防護具の使用が推奨される。防護の有効時間や有効条件には制限があるので、防護用具に添付された説明書の使用方法や使用限界に関する内容のすべてを読み理解すること。

技術的制御方法:
空気中の濃度を推奨される曝露限界値以下に制御するために作業用囲い、局所排気換気設備、その他の技術的制御方法を用いる。

人員保護装備
眼/顔面の防護:
通常は特別な眼の防護を必要としない。飛散する可能性がある場合は、安全作業実践として側面も防護された保護用眼鏡を着用する。
皮膚の保護:
皮膚に接触しないよう防護衣を着用する。防護衣には、作業内容によって異なるが、手袋、前掛け、ブーツ、完全顔面保護具などが含まれる。防護手袋の適切な材質： 塩素化ポリエチレン
(または、クロロスルホン化ポリエチレン), ニトリル ゴム, ポリウレタン, シルバーシールド, バイトン.
呼吸器系の保護:
空気中の濃度が推奨される職業暴露限界値より低値であることを確認する。もしそれ以下でない場合は、以下に示す本物質から適切に保護することができる認定呼吸装置を着用する：
有機物蒸気用空気浄化呼吸装置.
空気浄化式呼吸装置では適切な防護ができない場合には陽圧空気供給式呼吸装置を使用する。

労働曝露限界値:

構成成分	国/機関	TWA	STEL	Ceiling	Notation
1,2,4-トリメチルベンゼン	JSOH	120 mg/m3	--	--	--
1,2,4-トリメチルベンゼン	ACGIH (米国産業衛生専門家会議)	25 ppm (weight)	--	--	--
1,3,5-トリメチルベンゼン	JSOH	120 mg/m3	--	--	--
1,3,5-トリメチルベンゼン	ACGIH (米国産業衛生専門家会議)	25 ppm (weight)	--	--	--

適切な数値については当局にお問い合わせください。

9. 物理的及び化学的性質

注意：以下のデータは標準的な値であり、製品規格を示すものではない。

色調: 褐色
物理的状態: 液体
臭い: 利用可能なデータなし
臭いの閾値: 利用可能なデータなし
pH: 該当せず

蒸気圧: 利用可能なデータなし
蒸気密度 (空気 = 1) : 利用可能なデータなし
沸点: 利用可能なデータなし
溶解性: 水不溶性
凝固点: 利用可能なデータなし
融点: 利用可能なデータなし
比重: 1.11 @ 15.6℃ (60°F)
密度: 0.8840 kg/l @ 15℃ (59°F)
粘度: 1.11 cSt @ 40℃ (104°F)
温度膨張係数 / °F: 利用可能なデータなし
蒸発速度: 利用可能なデータなし
n-オクタノール/水 分配係数: 利用可能なデータなし
燃焼特性 (固体/気体) : 利用可能なデータなし
分解温度: 利用可能なデータなし
沸騰範囲: 利用可能なデータなし

引火性性質:
引火点: (ペンスキー-マルテンス密閉カップ) 50 ℃ (122 °F) 最低

自然発火: 利用可能なデータなし
燃焼 (爆発) 範囲 (空気中の容量%) : 下限: 利用可能なデータなし 上限: 利用可能なデータなし

10. 安定性及び反応性

反応性: 強酸若しくは塩素酸塩、硝酸塩、過酸化物などの強酸化剤と反応する恐れがある。
化学物質の安定性:
本物質は、通常の環境や温度や圧について予期できる保管や取り扱いの範囲内では安定と考えられる
回避条件: 引火点以上に加熱しないこと。
混触危険物質: 該当せず
有害な分解生成物: 何も知られていない。 (予測されるものなし)
危険な重合: 有害な重合反応は起こらない。

11. 有害性情報

即時健康障害
眼: 持続的または重大な眼刺激性を引き起こすとは考えられていない。
眼刺激性: 目刺激の危険性は、製品成分のデータ評価に基づいています.

皮膚: 皮膚に接触すると刺激性がある。
皮膚に接触すると、皮膚の乾燥と脱脂作用を引き起こす恐れがある。
症状には、疼痛、掻痒、脱色、腫脹、および水疱形成が含まれることがある。
皮膚への接触がアレルギー性皮膚反応を引き起こすとは考えられていない。
急性皮膚毒性: 急性皮膚毒性の危険性は、製品成分のデータ評価に基づいています.
皮膚刺激性: 皮膚刺激の危険性は、製品成分のデータ評価に基づいています.

皮膚感作: 皮膚感作の危険性は、製品成分のデータ評価に基づいています.

飲み込み: 非常に有毒：飲み込んだ場合、致死的な恐れがある。
粘性が低いため、飲み込んだ場合、またはそれに引き続いて嘔吐した場合、本物質は直接肺に進入し得る。一旦肺に入ると、除去は困難で重度の障害や死亡に至ることがある。
口腔、喉、胃を刺激する恐れがある。症状には、痛み、悪心、嘔吐、下痢が含まれる。
急性経口毒性: 急性経口毒性の危険性は、製品成分のデータ評価に基づいています.

吸入: 呼吸器系の刺激症状には咳と呼吸困難が含まれる。
本物質の過度または長期の吸入は、中枢神経系に影響する恐れがある。中枢神経系に対する作用には、頭痛、めまい、悪心、嘔吐、衰弱、運動失調、かすみ目、眠気、錯乱、失見当識などがある。過度の曝露により、中枢神経系に対する作用には呼吸抑制、震顫または痙攣、意識消失、昏睡、死亡のおそれがある。
急性吸入毒性: 急性吸入毒性の危険性は、製品成分のデータ評価に基づいています.
急性毒性予測: 未決定

その他の毒性情報:
成分：軽質芳香族溶剤ナフサ (CAS 64742-95-6、またASTM D-3734
では高引火点芳香族ナフサ、I類に分類されている)
遺伝毒性：以下の試験において遺伝毒性の観測された証拠は無い。サルモネラ菌復帰変異試験（エームス試験）、in vitro チャイニーズハムスター卵巣（CHO)細胞HGPRT変異性試験、in vitro
チャイニーズハムスター卵巣（CHO)細胞染色体異常試験、in vitro
チャイニーズハムスター卵巣（CHO)細胞姉妹染色分体交換試験、およびin vivo
ラット骨髄細胞染色体異常試験である。亜慢性毒性試験： 0、100、500、および1,500 ppm
の濃度で1日6時間、週5日間、13週間のラット吸入試験で、いずれの濃度群にも神経毒性を含む特定の臓器に対する毒性は観察されなかった。軽度の一般全身毒性が（体重増加抑制）が1,500
ppm群に観察された。
発生毒性： 妊娠6～15日の期間中、0、100、500、および1,500 ppm
の濃度で1日6時間吸入するマウス吸入試験で、100 ppm
群には母体への毒性および発生毒性は観察されなかった。500 ppm
群では、母体の毒性（体重増加抑制）および発生毒性（胎児体重減少）が観察された。1,500
ppm群では、重度な母体への毒性（死亡率44％、体重増加抑制、臨床的な毒性所見）および発生毒性（一腹当たりの生存胎児数の減少、母体1匹当たりの着床後喪失の増加、胎児体重の減少、骨化の遅延、口蓋披裂）が観察された。妊娠7～15日の期間中、600、1,000、および 2,000
mg/m3の濃度を1日24時間吸入させたラット吸入試験で、全用量群で母体に毒性徴候（体重増加抑制）が観察された。600 mg/m3
では、胎児毒性および発生毒性は認められなかった。胎児毒性の徴候（胎児雄の体重減少）および発生毒性の徴候（骨化の遅延）が 1,000 および 2,000 mg/m3 群で観察された。 生殖毒性：
ラットの3世代吸入試験を 0、100、500、および 1,500 ppm
の濃度、1日6時間、週5日間で実施したところ、100 ppm
群には一般全身毒性および生殖毒性は観察されなかった。500 ppm
では、親ラットに軽度の毒性（体重増加抑制）および出生後毒性（新生児の体重減少）が観察されたが、生殖毒性の各パラメータには異常は観察されなかった。親ラットに重度な毒性（死亡率、体重増加抑制、

臨床的な毒性所見）および出産後毒性（新生児の体重減少）が1,500 ppm
群で観察されたが、生殖毒性の各パラメータに影響はみられなかった。

12. 環境影響情報

生態毒性
本品は水生生物に有毒であり水生環境に長期の影響を及ぼすことがあると考えられている。
製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から導き出されている。

移動性
利用可能なデータなし.

残留性/分解性
本物質は、容易に微生物によって分解されるとは考えられていない。
製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から導き出されている。

生体蓄積の可能性
生物濃縮因子: 利用可能なデータなし.
オクタノール/水 分配係数: 利用可能なデータなし

13. 廃棄上の注意

物質を元来の使用目的に準じて使用するか、可能ならばリサイクルする。
本物質は、廃棄に関する国際、国別、各地域の法規制で定義されている有害廃棄物の基準に該当している可能性がある。

14. 輸送上の注意

ここに示した説明が、すべての出荷状況に当てはまるとは限らない。その他の記載要件（例えば、専門名）や輸送様式、輸送量に関する要件については、49CFRまたは適切な危険物規制法を参照。

DOT 運送要件： UN1993, FLAMMABLE LIQUID, N.O.S. (PETROLEUM LIGHT AROMATIC SOLVENT NAPHTHA), 3, III, MARINE POLLUTANT (PETROLEUM LIGHT AROMATIC SOLVENT NAPHTHA, POLYETHER AMINE)

IMO/IMDG 運送要件： UN1993, FLAMMABLE LIQUID, N.O.S. (PETROLEUM LIGHT AROMATIC SOLVENT NAPHTHA), 3, III, (50C), MARINE POLLUTANT (PETROLEUM LIGHT AROMATIC SOLVENT NAPHTHA, POLYETHER AMINE)

ICAO/IATA 運送要件: UN1993, FLAMMABLE LIQUID, N.O.S. (PETROLEUM LIGHT AROMATIC SOLVENT NAPHTHA), 3, III

15. 適用法令

検索された規制リスト:

01-1=IARC 第1群
01-2A=IARC 第2A群
01-2B=IARC 第2B群
02-1=化学物質排出把握管理促進法　(第一種指定化学物質)
02-2=化学物質排出把握管理促進法　(第二種指定化学物質)
03-1=労働安全衛生法 (製造禁止物質)
03-2=労働安全衛生法 (製造許可物質)
03-3=労働安全衛生法 (表示物質)
03-4=労働安全衛生法 (通知物質)
04-1=毒物劇物取締法 (毒物)
04-2=毒物劇物取締法 (劇物)

本物質の以下の構成成分は、ここに示した規制リストに記載されている。

1,3,5-トリメチルベンゼン	02-1, 03-4
1,2,4-トリメチルベンゼン	02-1, 03-4

消防法: 第四類第二石油類

既存化学物質リスト:

すべての成分は下記の化学物質リストの要件に適合している： AICS (オーストラリア), DSL (カナダ), EINECS (欧州連合), ENCS (日本), KECI (韓国), PICCS (フィリピン), TSCA (有害物質規制法) (米国).

１つ以上の成分が以下の化学物質リストに申請されているが掲載されていない可能性がある： IECSC (中国). 二次通知が必要になる場合があります。

16. その他の情報

改訂項目: この改訂版では安全データシートの以下の項目が最新化されています： 2
改訂日: 2016 年 02 月 11 日

本文書で使用されている省略語:

TLV (閾値限界値)　- 閾値限界値	TWA　- 時間加重平均
STEL　- 短期曝露限界値	許容曝露限界値　- 許容曝露限界値
	CAS　- ケミカル アブストラクト サービス登録番号
ACGIH　- American Conference of Governmental Industrial Hygienists	IMO/IMDG　- International Maritime Dangerous Goods Code
API　- American Petroleum Institute	SDS　- 安全データシート
CVX　- Chevron	NFPA　- National Fire Protection Association (USA)
	NTP　- National Toxicology Program (USA)
IARC　- International Agency for Research on Cancer	

Chevron Energy Technology社によりJIS Z 7252:2014/JIS Z 7253:2012 に基づき作成された。

上記の情報は、我々の目に留まり、現時点で正しいと信じられているデータに基づいている。この情報は、人の制御能力を超えたよく知られていない状況に適用されること、またそれ以降も新しいデータが利用できるようになることから、修正されることがある。　　ご使用の結果に関して当社は責任を負わない。この情報は、その素材が自分の特定の目的に適合していることを、情報を受けた人が自分で判断するという条件で提供されている。

[会社情報]

販売者：(株)スズキ自販福岡
所在地：糟屋郡粕屋町仲原鶴町2567-10
TEL:092-621-6161